

「がん」に この名医

医学ジャーナリスト松井宏夫

51

大腸がん②

大腸がんの死亡者数は2010年が4万4238人、06年の罹患(り)かん者数が10万7815人、今日では11万人を越え、ほぼ胃がんの罹患者数11万6911人と並んでいると思われる。罹患率に対する死亡者の比率は約40%で、肺がんの約80%と比べると、治る可能性がかなり期待できるがんといえる。ところがいえる。だからこそ、しっかりと検査を受けるべきなのである。

「大腸がんの症状はがんが大きくなるにつれて『便通異常』『出血(血

★大腸がん 内視鏡治療の名医★

▽がん研有明病院(東京都江東区)内視鏡診療部 五十嵐正広部長

▽国立がん研究センター中央病院(東京都中央区)内視鏡科・内視鏡センター 齋藤豊科長・センター長

▽藤井隆広クリニック(東京都中央区) 藤井隆広院長

便』『腹痛』などがありません」と話すのは慶応義塾大学医学部(東京都新宿区)腫瘍センターの浦岡俊夫講師。そして続ける。「ただし、早期がんでは症状は出ません。症状が出てからでは内視鏡治療は無理なので、症状がなくても便潜血検査」を受けするのが大事です」。

◎便潜血検査
大腸がん検診では必ず行われるスクリーニング検査。便の中の血液の反応の有無によって消化管の出血を調べる。採取して提出する便には1回の採取の「1日法」と2日間連続して採取して提出する「2日法」がある。

便に血液反応があつて陽性と判定された場合は精密検査となる。痔(じ)、大腸ポリープなどのほかに疾患は数多く、大腸がんと診断がつく人は精密検査

を受けた人の3%程度である。

「出血の反応がみられない陰性の場合、その後毎年便潜血検査を受けてください」

◎大腸内視鏡検査
この検査は大腸を空の状態にした後、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の中を直接観察する検査で、鎮静剤を使って行う施設が多い。

大腸内視鏡を行って「異常なし」となると、これで大腸内視鏡をしほらく受けない人が意外に多い。が、それは決して正しくはない。

「検査で見逃しがないとも限りません。異常なしでも翌年続けて受け、2回続けて異常がなければ、次は3年後で良いでしょう。ポリープがあつた人は、私たちはきれいに取るようにしていますので、翌年ポリープがなければ、この場合も次は3年後で良いでしょう。ただし、便潜血検査は毎年受けてください。そこで陽性の場合、これは大腸内視鏡検査を受けることとなります」

40歳以上の人は、すでにがん年齢であることを肝に銘じ、早期発見に向かうべきである。

治る可能性高いからこそ毎年検査を

大腸がん検診で必ず行われるスクリーニング検査。便の中の血液の反応の有無によって消化管の出血を調べる。採取して提出する便には1回の採取の「1日法」と2日間連続して採取して提出する「2日法」がある。

便に血液反応があつて陽性と判定された場合は精密検査となる。痔(じ)、大腸ポリープなどのほかに疾患は数多く、大腸がん

と診断がつく人は精密検査を受けた人の3%程度である。

「出血の反応がみられない陰性の場合、その後毎年便潜血検査を受けてください」

◎大腸内視鏡検査
この検査は大腸を空の状態にした後、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の中を直接観察する検査で、鎮静剤を使って行う施設が多い。

大腸内視鏡を行って「異常なし」となると、これで大腸内視鏡をしほらく受けない人が意外に多い。が、それは決して正しくはない。

「検査で見逃しがないとも限りません。異常なしでも翌年続けて受け、2回続けて異常がなければ、次は3年後で良いでしょう。ポリープがあつた人は、私たちはきれいに取るようにしていますので、翌年ポリープがなければ、この場合も次は3年後で良いでしょう。ただし、便潜血検査は毎年受けてください。そこで陽性の場合、これは大腸内視鏡検査を受けることとなります」

40歳以上の人は、すでにがん年齢であることを肝に銘じ、早期発見に向かうべきである。